

中期経営計画 2026-2028

2026年5月13日



証券コード:4761



1. 経営理念

2. 当社の事業概要

3. 前中期経営計画の総括(2023-2025)

4. 中期経営計画概要(2026-2028)

1. 経営理念

2. 当社の事業概要

3. 前中期経営計画の総括(2023-2025)

4. 中期経営計画概要(2026-2028)

経営理念

IT価値を提供することにより、社会・お客さまの発展に貢献する。

社会・お客さまの信用

変化に対応できる強靱な企業体質を構築し、企業価値の向上を図る。

会社の繁栄

個人価値を自ら向上させ、組織貢献できる社員に活躍の場を提供する。

社員の成長

デジタルの先を想う

Support Your Blooming

あらゆるビジネスのデジタル化が加速するなか、
私たちはお客さまの思い描く未来を実現するパートナーであり続けます。



1. 経営理念

2. 当社の事業概要

3. 前中期経営計画の総括(2023-2025)

4. 中期経営計画概要(2026-2028)

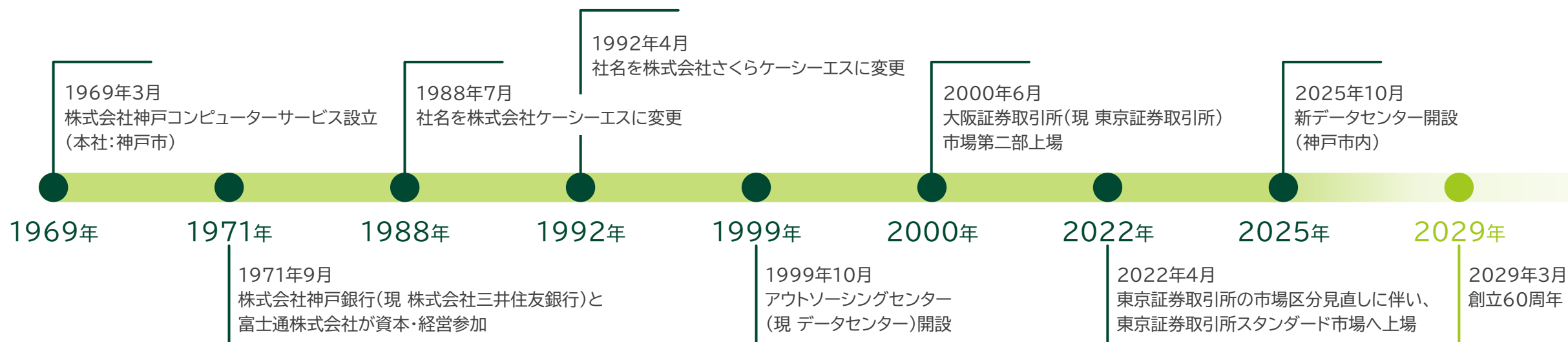
企業概要・沿革

さくらケーシーエスとは

当社は、SMBCグループにおける総合情報サービス企業です。

1969年3月、「地域のための計算センター」として兵庫県神戸市に設立以来、現在は本社を置く神戸・東京に加え、大阪・姫路オフィスを拠点として、日本全国のお客さまのIT化を支援しています。

SMBCグループのユーザー系企業であると同時に、富士通グループのコアパートナーとして技術力を磨くメーカー系の側面、さらにオープンな企業風土を持つ独立系の側面を併せ持つことで、当社は3つの特長を兼ね備えた総合情報サービス企業として、バランスの取れた経営基盤と事業ポートフォリオを構築し、着実な事業拡大と発展を続けております。



事業概要

さくらケーシーエスは、金融機関、民間企業、自治体、学校など幅広い業種のお客さまへ、システム企画・開発をはじめ、デジタル基盤構築、情報セキュリティ対策支援、システム運用、改善提案などのITソリューションを提案・提供しています。

金融分野

SMBCグループ各社をはじめとした全国の金融機関向けのシステム構築・運用管理のほか、地域金融機関向けに各種ソリューションを提供しています。

公共分野

関西を中心とした自治体・公団体向けのシステム構築・運用管理のほか、学校・教育機関向けにも各種ソリューションを提供しています。

産業分野

製造・流通・サービス業など幅広い民間企業向けに、多種多様な業務システム構築・運用管理や各種ソリューションを提供しています。

共通 デジタル基盤

仮想化・クラウドなどのシステム基盤に加え、ネットワーク環境など、情報システムを支えるデジタル基盤の構築サービスを提供しています。

共通 セキュリティ・アウトソーシング など

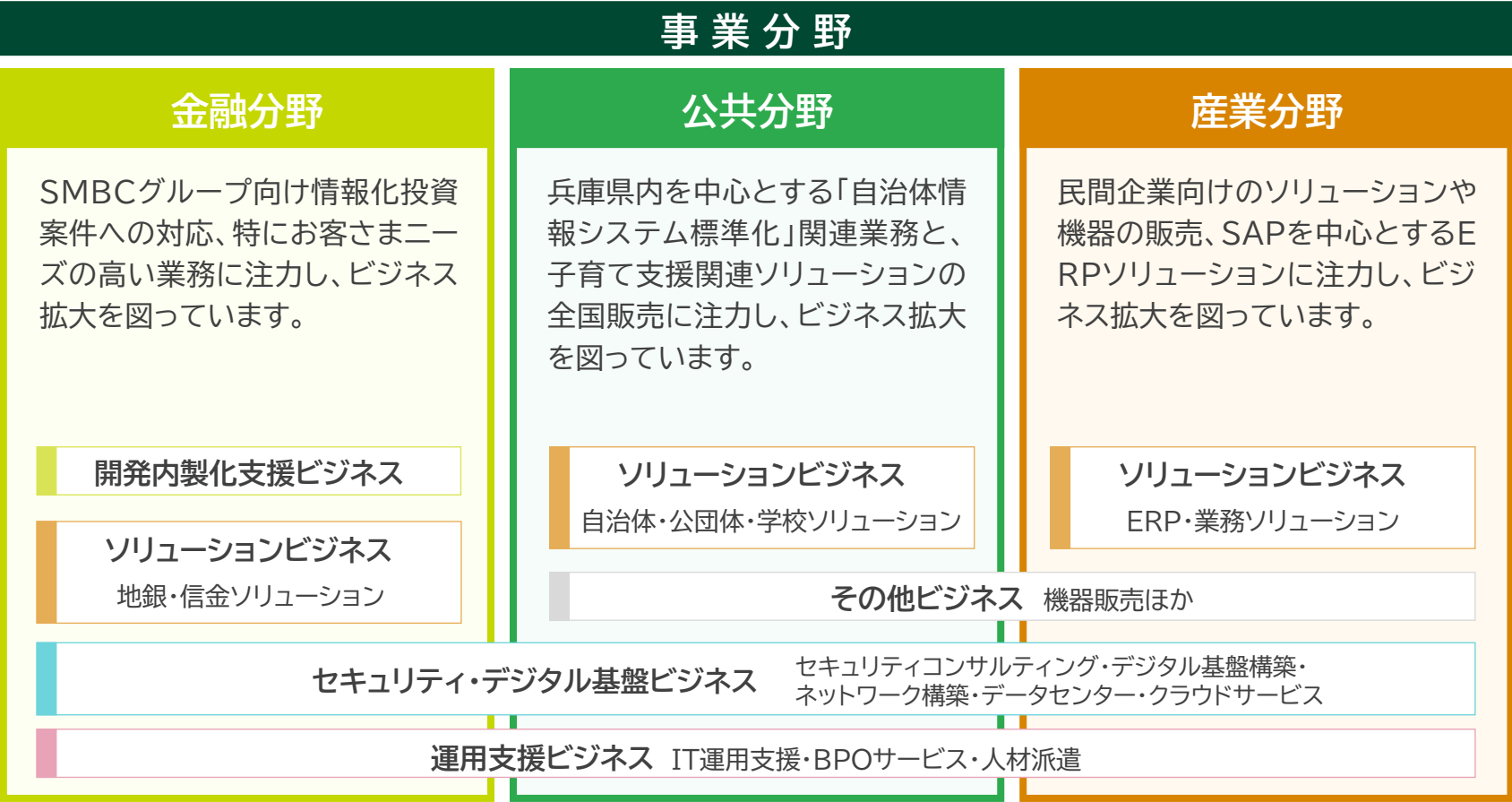
お客さまのニーズに応じたさまざまな情報サービスを提供しています。

- ・ プライバシーマーク取得支援コンサルティング
- ・ ISO/IEC 27001 認証取得支援コンサルティング
- ・ 脆弱性診断サービス
- ・ データセンターサービス など

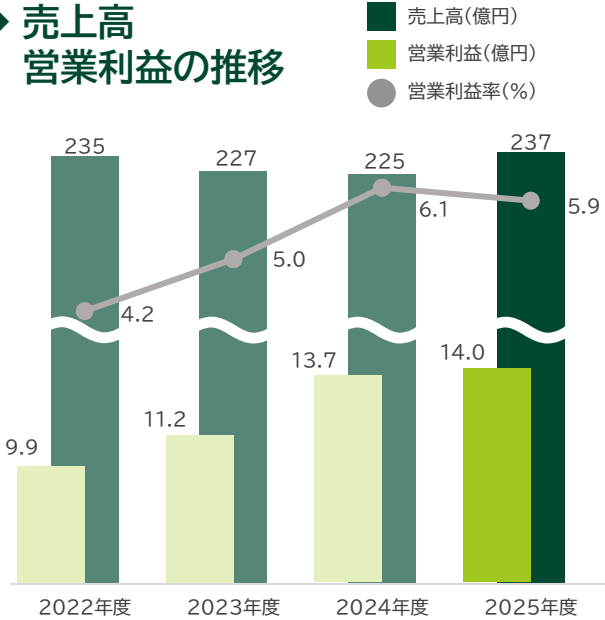
事業内容と状況

当社は、「金融分野」、「公共分野」及び「産業分野」の3つの事業分野から構成されており、独立した3分野が安定的経営の基盤となっております。また、これら3分野に共通する事業基盤として、セキュリティ対策、ネットワーク・デジタル基盤の構築、データセンターサービス、運用支援サービス等を一体的に提供し、ビジネス拡大を図っています。お客さまの経営課題を的確に捉えた提案で、デジタル化を通じた持続的な成長、社会の実現を支援しています。

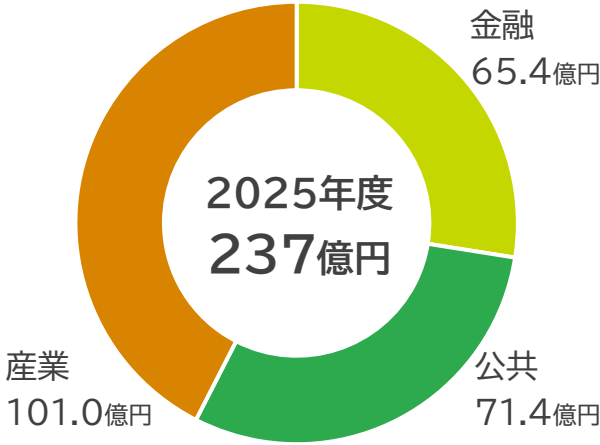
ビジネス領域



売上高
営業利益の推移



事業分野別売上高





1. 経営理念

2. 当社の事業概要

3. 前中期経営計画の総括(2023-2025)

4. 中期経営計画概要(2026-2028)

前中期経営計画2023-2025の総括

「情報セキュリティが確保され続けることを前提とした上で、収益力の大幅な飛躍とその利益を源泉とした投資サイクルの確立によりサステナブルな成長を目指す」ことを基本方針とし、次の5項目に重点的に取り組んでまいりました。

◆重点項目

情報セキュリティ強化

- ・ ゼロトラスト※1を前提とした社内IT環境と事業用データセンターのセキュリティ対策強化や、CSIRT※2を設立するなど運用面でもセキュリティ対策強化に継続的に取り組んだ結果、金融機関向けサイバーセキュリティフレームワーク(CRI Profile)に準拠した第三者評価において、当社ビジネス領域に求められる基準をすべて達成

原点回帰、収益基盤の維持・強化

- ・ 金融・公共・産業、すべての事業分野において、ビジネス拡大と価格適正化を推進し、収益力が向上
- ・ JDCCティア4相当※3の強固なファシリティ、厳重なセキュリティ対策を備えた新データセンターを開設

創造的分野や自社製品・技術による事業拡大

- ・ セキュリティ・デジタル基盤ビジネス拡大に向けた取組みを推進したものの、現時点での業績貢献は限定的
- ・ 自社ソリューション強化の基盤となる開発標準プラットフォームが完成、システム開発における生成AI活用を開始

人(社員等)への投資の強化

- ・ 処遇改善や福利厚生を含めた就労環境が向上したことなどにより、新卒採用が拡大
- ・ 即戦力人材の獲得(キャリア採用)も強化したものの限定的、さらに強化を進める

社内インフラ投資の強化

- ・ PCの無線化や社内ネットワークの増強、オフィスリニューアルなど、多様な働き方の実現や生産性向上に資する社内インフラの強化を着実に推進

※1 「ゼロトラスト」とは、クラウドサービスの普及やテレワークの拡大等によりネットワークの社内・社外の境界があいまいとなる中、社内・社外にとらわれることなく情報資産にアクセスするものはすべて信用せずの確認し、認証・許可を行うことにより情報資産を守る考え方です。

※2 「CSIRT」とは、サイバー攻撃や情報漏洩などのセキュリティインシデント(事故・事件)が発生した際に、その対応や調査、被害最小化を行う専門チームのことです。

※3 JDCC(特定非営利活動法人 日本データセンター協会)が制定した、日本国内のデータセンターに求められる信頼性を実現するためのファシリティ内容を定めた基準で、ティア4は最高レベルを指します。

前中期経営計画2023-2025の総括

金融・公共・産業、すべての事業分野における収益改善が進み、経常利益は2期連続、当期純利益は3期連続で上場来最高益を更新、ほぼすべての財務目標を達成しました。配当性向は、業績・財務・投資等を総合的に勘案し、目標水準以上の50%まで引き上げております。収益改善に伴ってROEも、6.0%となり、株主資本コストを上回る水準まで向上しましたが、当社が目指す8%には届いていない状況であり、引き続き経営課題と認識しています。

◆財務目標

	2022年度 実績	2025年度 当初中計	2025年度 実績	(2022年度比)
売上高	235億円	242億円	237億円	(CAGR※1 0.3%)
営業利益	9.9億円	9.2億円	14.0億円	(CAGR 12.2%)
営業利益率	4.2%	3.8%	5.9%	(+1.7pt)
経常利益	10.3億円	10.0億円	16.0億円	(CAGR 15.6%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	7.4億円	6.9億円	12.2億円	(CAGR 17.8%)
ROE	4.3%	3.5~4.0%	6.0%	(+1.7pt)
配当性向	26.9%	30~40%	50.3%	(+23.4pt)
年間配当金	18円	—	55円	(+37円)
1株当たり当期純利益	66円86銭	—	109円32銭	(+42円46銭)

◆非財務目標

	目標	実績
情報セキュリティ 及び サイバーセキュリティ インシデント発生件数	0件	0件
連結売上高 セキュリティ投資比 率	0.5%以上 ※JCIC※2推奨値	0.7% (+0.2pt)
部長級に占める 女性の割合	10%以上	8.3% (▲1.7pt)
社員向け職場 アンケートにおける 社員満足度の向上	年1回の アンケートを実施し、 社員の声を反映	2023年度比 3.5%向上

※1 CAGR：中期経営計画期間中(3年間)の年平均成長率

※2 JCIC：一般社団法人日本サイバーセキュリティ・イノベーション委員会が推奨する大企業向けの指標値

経営環境と中長期課題

経営環境

不確実性の高い経営環境において
「強み」を活かした収益力強化を実現

社会を取り巻く環境



AIの劇的な進化



サイバー攻撃の
深刻化



人口・社会構造の
変化



働き方の変化

激しい変化
高い不確実性



当社の強み

**SMBCグループの
信用力と協働シナジー**

豊富なノウハウ

公共、産業分野での
お客さまと培った
業務・システム開発・運用ノウハウ

安定基盤

「金融」「公共」「産業」の
独立した3分野が
安定的経営の基盤

課題認識

AIの進化がさらに加速することを前提とした
経営戦略の必要性を認識し、中長期課題を設定

中長期課題

事業収益の積極活用によって高付加価値サービスを充実し
持続的成長を実現するサイクルを作り上げる

人的投資強化

**成長分野への
積極投資**

**アジリティ(機敏性)
の高い組織への変革**

**新たな価値創造
へのチャレンジ**

持続的成長の実現・企業価値の向上



1. 経営理念

2. 当社の事業概要

3. 前中期経営計画の総括(2023-2025)

4. 中期経営計画概要(2026-2028)

中長期ビジョン(成長戦略)

2035年に
めざす姿

社会やお客さまビジネスの発展に貢献する高付加価値ソリューションの提供を通じた高い収益力の獲得と企業価値の向上によるステークホルダーからのゆるぎない信頼の獲得

重要指標の早期実現
ROE 8%以上 (2031年度)
PBR 1倍以上 (2028年度)

事業戦略
コア・注力
ビジネス

ソリューションビジネス

高付加価値ソリューションの拡充、顧客を課題解決に導く提案力の強化

開発内製化支援ビジネス

AI利活用を前提とした生産性向上、提供価値の変革

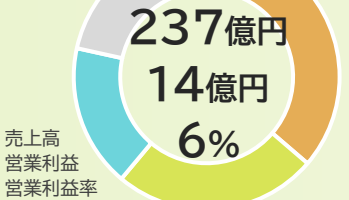
セキュリティ・デジタル基盤ビジネス

高度なセキュリティ対策のノウハウ、新データセンターを活用したサービス展開

2025年度

ROE 6.0%

PBR 0.7倍



事業ポートフォリオ(売上高構成比)

- ・ソリューションビジネス:積極投資・リソースシフト
- ・開発内製化支援:AI利活用前提のビジネスモデルへ転換
- ・セキュリティ・デジタル基盤:大規模データセンターとの差別化、セキュリティ対策と基盤構築～運用までの一体サービス拡充

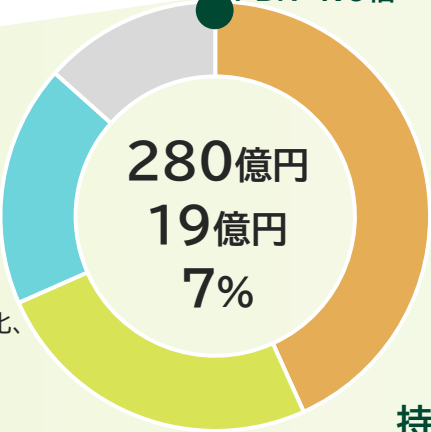
100億円規模の成長・基盤投資

売上拡大

2028年度

ROE 6.4%

PBR 1.0倍



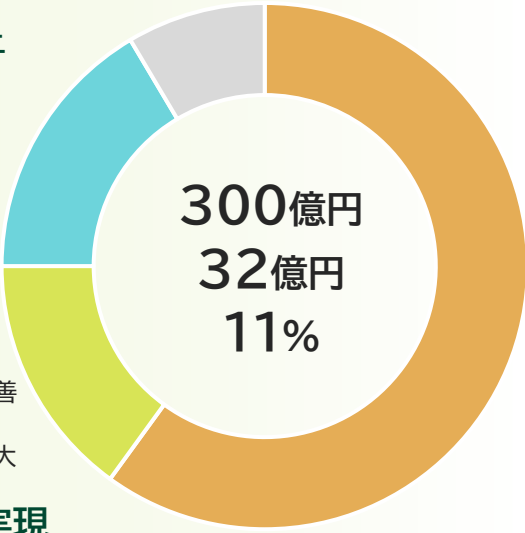
- ・ソリューションビジネス:飛躍的拡大
- ・開発内製化支援:原価低減による利益率改善
- ・セキュリティ・デジタル基盤:各種サービスの高度化による拡大

持続的な成長投資サイクルの実現

利益率改善

2031年度

ROE 8.0%以上



2035年度

財務・投資戦略／人材戦略／AX戦略

■企業価値向上の実現

■人的資本経営の進化

■AIの利活用

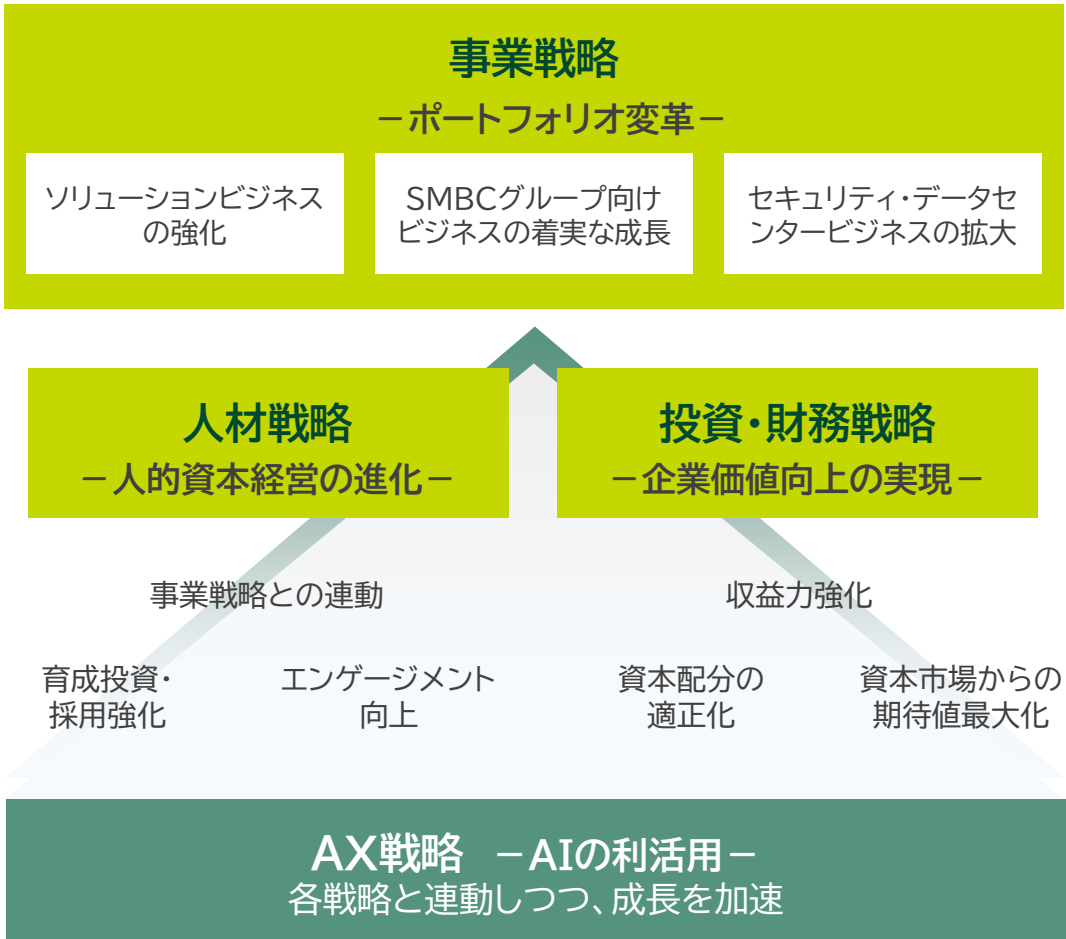
本中期経営計画期間(2026-28年度)

2029-35年度

中期経営計画の全体像

4つの基本戦略とサステナビリティ基本方針で、中期経営計画の経営指標達成を目指す

4つの基本戦略



サステナビリティ基本方針

SMBCグループの一員としてSMBCグループの定めるサステナビリティに関する方針等に沿いつつ、さくらケーシーエスグループの経営理念に基づく企業活動を通じて、「持続可能な社会」の実現と「さくらケーシーエスグループの持続的な成長」の実現に取り組めます。



中期経営計画の経営指標

ROE8%を将来の目標値として、利益水準の向上と適切な自己資本水準を目指す

財務		2025年度実績	2028年度目標	(2025年度比)
	売上高	237億円	280億円	(CAGR 5.6%)
	営業利益	14.0億円	19.0億円	(CAGR 10.6%)
	営業利益率	5.9%	6.8%	(+0.9pt)
	経常利益	16.0億円	21.0億円	(CAGR 9.4%)
	親会社株主に帰属する 当期純利益	12.2億円	14.4億円	(CAGR 5.6%)
	ROE ※2026年3月末の数値から算出	6.0%	6.4%	(+0.4pt)
3年間の戦略的成長投資		100億円	株主還元DOE	3.5~4.0% (2025年度実績 3.2%)

◆参考情報	2022年度 実績	2025年度 実績
売上高	235億円	237億円
営業利益	9.9億円	14.0億円
営業利益率	4.2%	5.9%
経常利益	10.3億円	16.0億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	7.4億円	12.2億円
ROE ※2026年3月末の数値から算出	4.3%	6.0%

非財務	人材への投資	持続的成長の源泉である人材に積極投資	1人当たり 年間教育・研修投資	12万円以上(売上高比率0.6%以上水準)
	多様性の受容と活躍	多様な人材がいきいきと活躍できる就労環境 の整備と企業風土の醸成に取り組む	従業員アンケートにおける エンゲージメントスコア	年1回以上、従業員アンケートを実施 結果を施策反映
			男性育児休暇取得率	100%
			管理職に占める女性の割合	10%以上
	セキュリティリスク対応	深刻化するサイバーセキュリティリスクに、 有効な対策の強化に継続的に取り組む	連結売上高セキュリティ投資 比率	0.5%以上の水準維持 ※JCIC推奨値

事業戦略の骨子

事業戦略

ポートフォリオ変革

SMBCグループ向けビジネスの着実な成長を下支えとして、高収益が期待できるソリューションビジネスへの積極投資とリソースシフトを進める

①ソリューション ビジネスの強化

- 当社にとって最大の「伸びしろ」となるビジネス領域
- DXをはじめとするお客さまの課題解決を実現するソリューション提供を拡充し、ビジネス拡大を図る
- SMBCグループ企業が提供するサービスとの連携によるシナジーやAX推進によって顧客提供価値を最大化させる

産業	ERPソリューション(SAPほか)	公共	自治体ソリューション	金融	地銀・信金ソリューション
	業務ソリューション(経理・化学)		学校ソリューション		

②SMBCグループ向け ビジネスの着実な成長

- 当社が長年培った実績と信頼を活かし、安定的かつ着実なビジネス拡大を見通せる領域
- SMBCグループのデジタル戦略において、データガバナンス領域などの強みが活かせる領域に注力し、収益力を高める
- SMBCグループのAI活用拡大と連動し、「労働力の提供」から「AIを活用した価値提供」への転換を進める

金融	データガバナンス強化	EUC※1(RPA・自動化・AI／データ活用)
----	------------	-------------------------

③セキュリティ・データセンター ビジネスの拡大

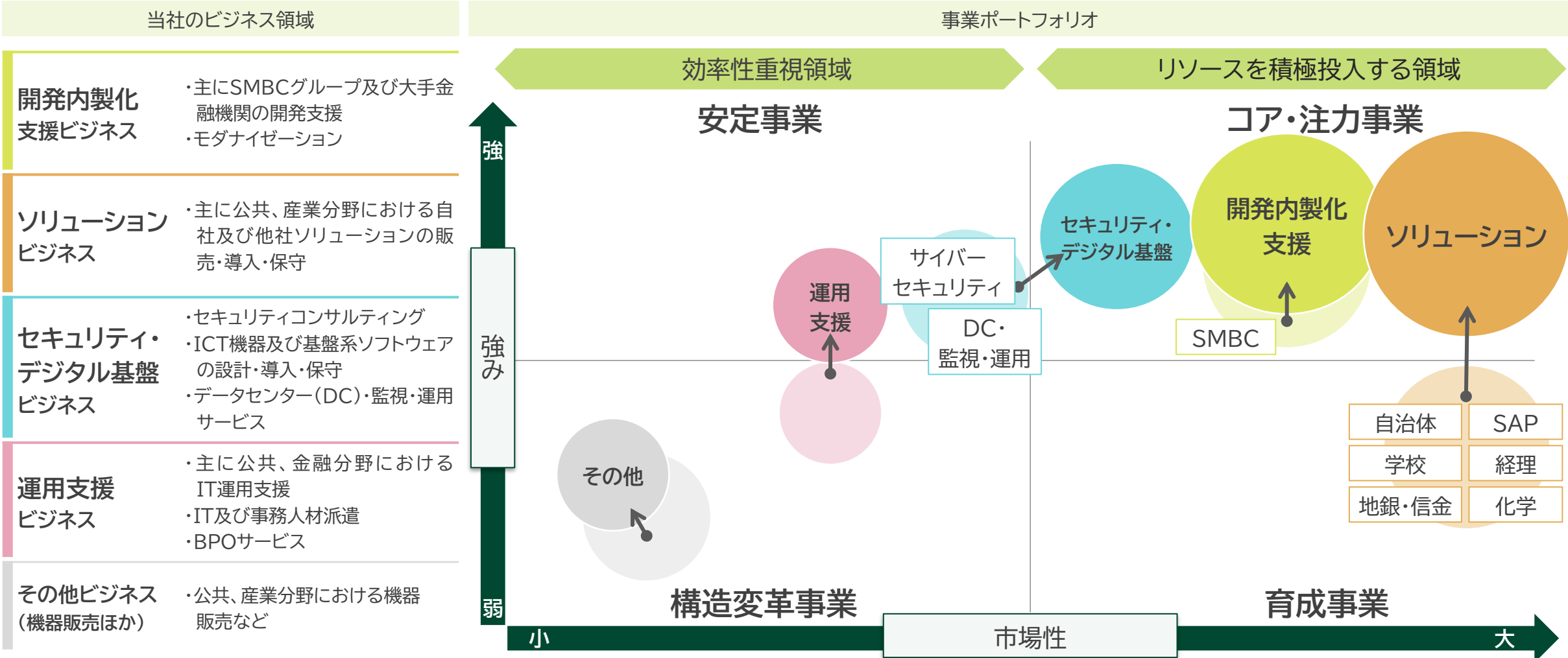
- サイバーセキュリティリスク、サプライチェーンリスクの増大が社会課題となる中、当社ノウハウが活かせる領域
- 金融機関向けサイバーセキュリティフレームワーク(CRI Profile)に則した自社対策ノウハウと、2025年10月に開設した新データセンターの強固なファシリティ、IT運用の自動化ノウハウを最大限活用したサービス展開を強化する
- セキュリティ対策からITに欠かせないデジタル基盤の構築、運用サポートまで、ITライフサイクル全体をカバーするサービスの拡充によって、お客さまビジネスに安心と安定を提供し、収益力を高めるとともに社会の発展に貢献する

共通	サイバーセキュリティ 評価・対策・検知	サイバーセキュリティ データ保護・復旧	データセンター・監視・運用サービス
----	------------------------	------------------------	-------------------

※1 EUCとは、業務担当者(エンドユーザー)が、IT部門の介入を最小限に抑えつつ、自ら業務に必要なシステムやツールを作成・運用する考え方です。

事業戦略 ポートフォリオ変革

着実な成長が見込めるSMBCグループ向け「開発内製化支援ビジネス」と、注力ビジネスと位置付ける「ソリューションビジネス」、
「セキュリティ・デジタル基盤ビジネス」への積極的な投資とリソース投入を行う



人材戦略

「新しいことに果敢に挑戦し、自ら主体的に行動できる自律的な人材」の獲得・育成・定着を進め、事業成長を支える人材基盤の強化を図る

従業員への還元

事業成長で得られた成果を、賃金・賞与・福利厚生・教育研修など多面的な形で、従業員へ還元

人事評価制度の抜本的な見直し

成長と挑戦を正しく評価に反映できる人事評価制度へ抜本的に見直す

成長機会の提供・研究開発への取り組み

一人ひとりの成長への挑戦機会と環境を整備

- ・ 基礎から実務レベルまで段階的に学べる学習プラットフォームの提供
- ・ AIなどの新技術に実際にふれる「さわリーPark」、モチベーションを高めあう「もちカフェ」、トッププレイヤーに学ぶ「座談会」の開催 等

人的資本経営 の進化

働きやすい職場環境整備

快適に働くことができるオフィス環境への転換

- ・ 集中とコミュニケーションの双方を大切にしたフリーアドレス化やリラックススペースの拡充
- ・ 職種を問わず、働きやすく学びあえるよう、設備・レイアウトにこだわったオフィスづくり

ダイバーシティ・人権・健康経営

多様な人材が、多様な働き方で、いきいきと活躍できる就労環境と制度の充実

- ・ 在宅勤務やフレックス勤務制度の活用
- ・ 出産・育児・介護を安心して両立できると支援
- ・ 安心してパフォーマンスを発揮できる健康経営を推進



企業文化の変革

「変化を恐れずチャレンジする文化」「人材確保と育成を全社で推進する文化」「自らキャリアを切り開こうとする文化」

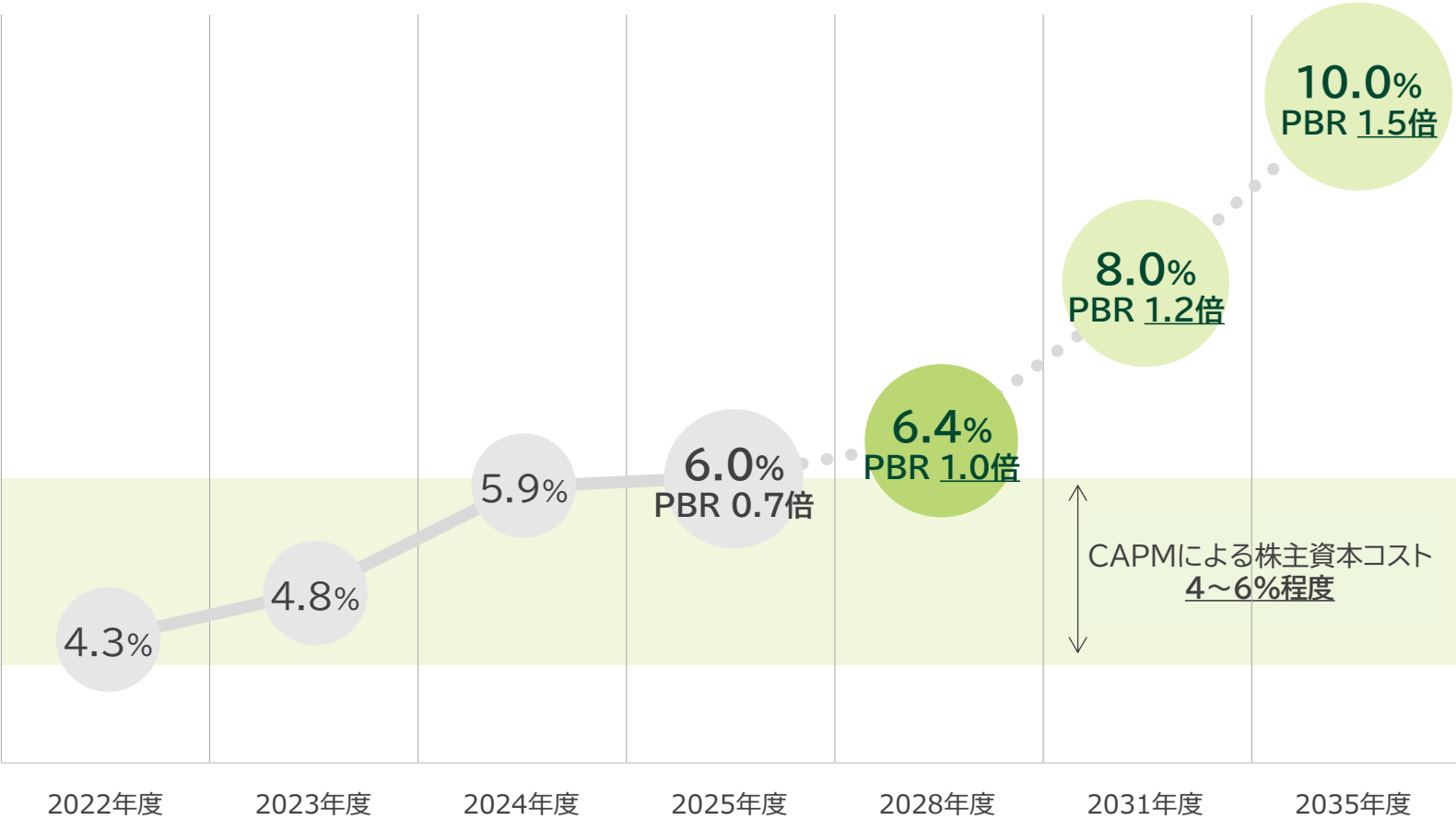
投資・財務戦略 現状分析と課題

投資・財務戦略

企業価値向上の実現

ROEと株主資本コストの推移から現状把握と課題を分析し、**PBR1倍以上**を目標とする

ROEと株主資本コストの推移



現状分析

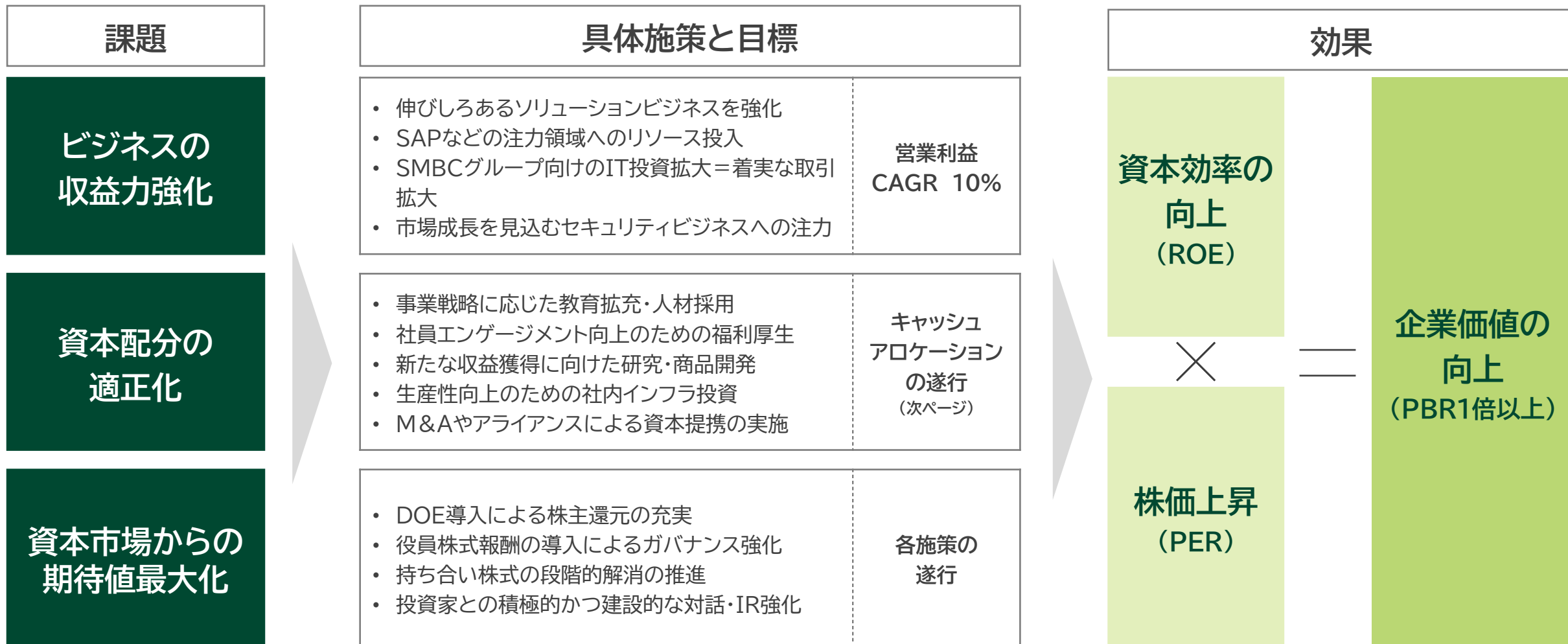
	業界平均	当社
収益性 (売上高利益率)	4.6%	5.1%
資産効率 (総資産回転率)	1.10回	0.91回
資本活用度 (財務レバレッジ)	1.73倍	1.28倍

- 収益性は、高収益案件に注力したことに加え、品質管理の強化による不採算案件抑制が、ROE向上に寄与
- 資産効率は、低下傾向にあり投入した資本に対して売上高が十分に貢献できていない
- 財務レバレッジは、低水準で安全性が高い一方で、ROEが伸び悩む要素となり、資本構成の最適化が必要

PBRは依然として1倍を割れている状況
さらなる収益性向上と適正な資本配分に取り組み、
企業価値向上を目指す

投資・財務戦略 課題を踏まえた取組みと目標

以下の3つの課題に対して、具体的な施策と目標を掲げ、企業価値の向上を図る



投資・財務戦略 キャッシュ・アロケーション方針

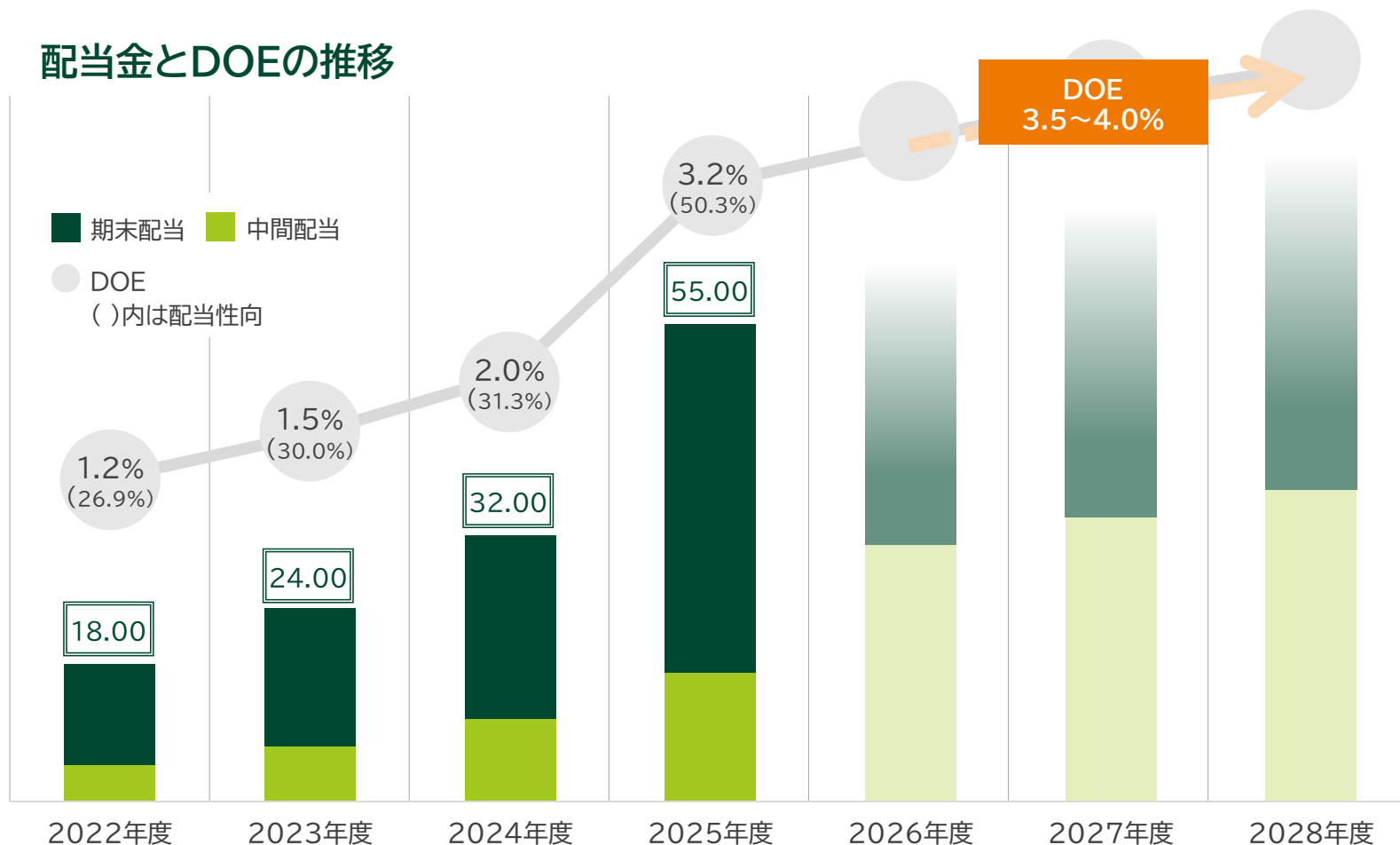
- ・ 中期経営計画期間において獲得した収益(営業C/F)は内部留保せず、投資・株主還元をバランスよく実施する
- ・ 戦略投資は、手許資金からの配分を基本とする(手許資金を超える投資も排除しない)
- ・ DOEを新たな指標とし、資本効率を意識した高水準かつ安定的な株主還元の充実を図る



投資・財務戦略 株主還元・資本政策

- 株主還元を、経営の重要課題として認識し、「高水準かつ安定的な配当」を積極的に推進
- 財務体質を強化するため、政策保有株式の削減を推進

配当金とDOEの推移



配当における基本方針

- DOEを指標とした株主還元を実施
- キャッシュ・アロケーションに対する投資と余剰資金の状況を考慮のうえ、改めて株主還元にも配分

◆ 資本政策

政策保有株式の売却

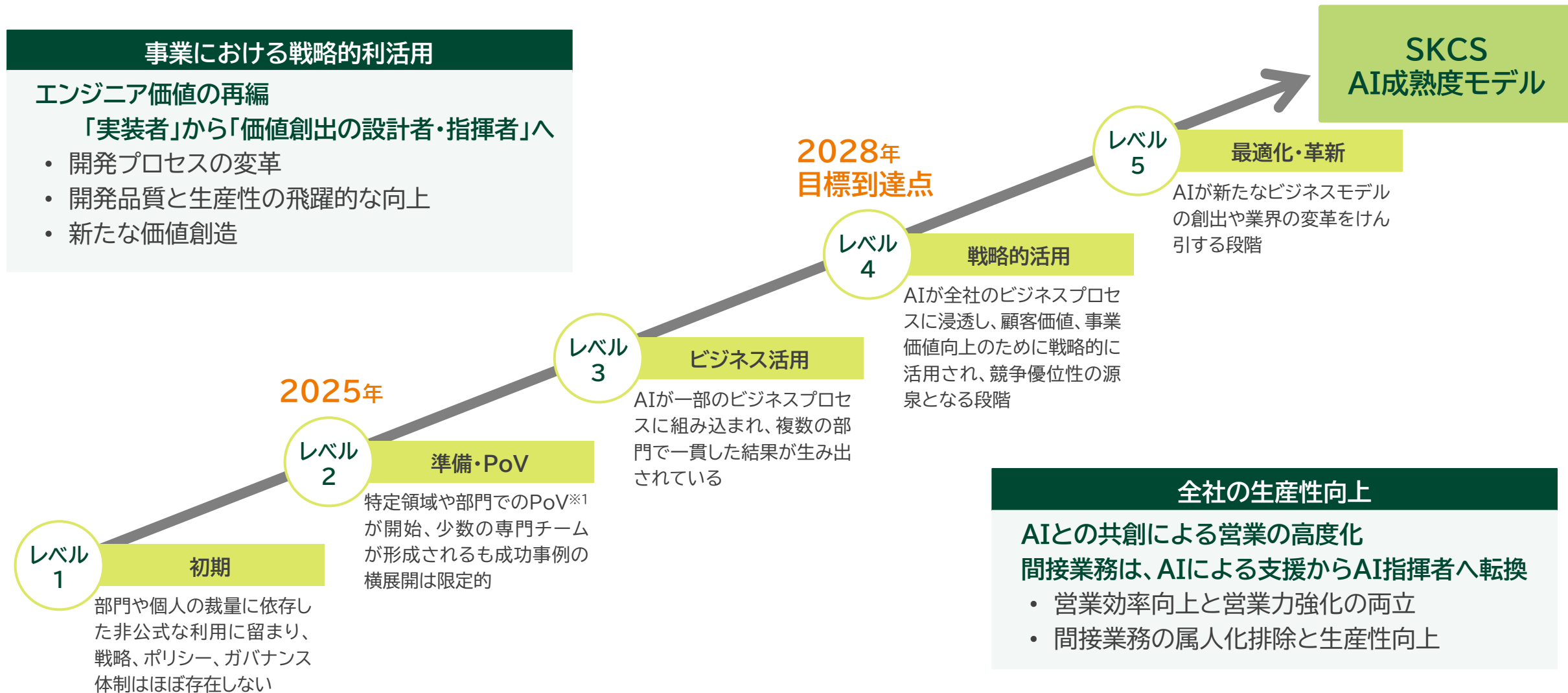
- 資本コストを踏まえた保有メリットや資本効率の観点から保有合理性を検証
- 保有目的が希薄化した銘柄については、段階的かつ計画的に売却を進め政策保有株式の20%程度の売却完了を目指す

自己資本の最適化

- ROEが資本コストを上回る水準を確保しながら、過剰な自己資本は株主還元や成長投資に振り向け、停滞する資本を削減
- DOEを指標とし、安定的かつ積極的な株主還元を実施
- 自己資本と負債のバランスを検証し、最適な資本構成を維持

AX(AI Transformation)戦略

全社業務でAIを利活用し、その実践知の蓄積・共有を繰り返すことで、「ビジネスプロセスの変革」と、「新たな価値を創造」を実現する



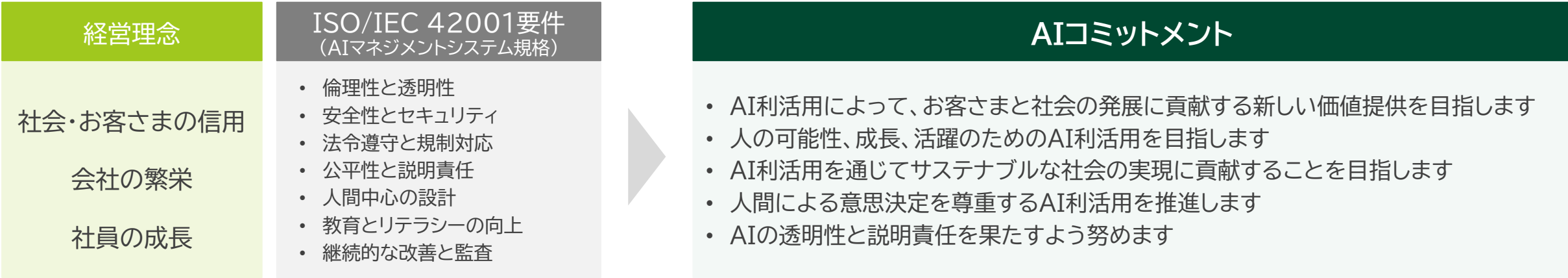
※1 PoVとは、「Proof of Value(価値実証)」の略で、製品やサービスが実際にどれだけの価値を提供できるかを検証するプロセスを指します。

AX戦略 推進・ガバナンス体制

経営理念及びAIコミットメントに基づき、CAXOの統括のもと、「AI・セキュリティ統合ガバナンス体制」を構築し、AX戦略を加速的に推進

推進方針 (ガバナンス)

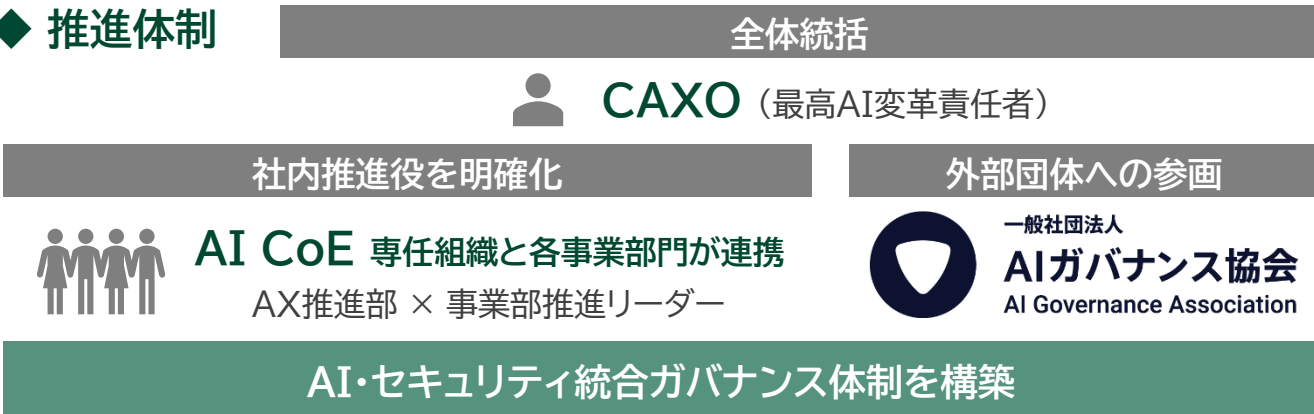
AI利活用によるリスクを情報セキュリティと一体で捉え、
ステークホルダーにとって受容可能な水準でマネジメントする体制を整備、運用する



◆ 推進プロセス



◆ 推進体制



サステナビリティ 基本方針と取組み

私たち(さくらケーシーエスグループ)は、SMBCグループの一員としてSMBCグループの定めるサステナビリティに関する方針等に沿いつつ、さくらケーシーエスグループの経営理念に基づく企業活動を通じて、「持続可能な社会」の実現と「さくらケーシーエスグループの持続的な成長」の実現に取り組めます。

具体的には、持続的成長の源泉である人材への積極投資、多様な人材がいきいきと活躍できる就労環境と企業風土の醸成への取組み、さらには深刻化するサイバーセキュリティへの継続的な対策強化を経営基盤の重点強化テーマに定めます。

さらに、社会・お客さまから信頼され、選ばれ続けるさくらケーシーエスグループであるために、技術革新やサービス品質の向上を推進し、持続的成長を支える強固な経営基盤の構築に努めてまいります。

経営理念

IT価値を提供することにより、社会・お客さまの発展に貢献する。
変化に対応できる強靱な企業体質を構築し、企業価値の向上を図る。
個人価値を自ら向上させ、組織貢献できる社員に活躍の場を提供する。

社会・お客さま
の信用

会社
の繁栄

社員
の成長

SMBCグループ 社会的価値創造宣言

社会的価値創造宣言

社会的価値創造のフロントランナーとして
「幸せな成長」を実現し、明るい未来を次世代に受け渡す。



SKCSグループ サステナビリティ方針

私たちの取組み

緑の地球

- 社内手続きの完全電子化
- 取引書類の電子化
- 再生可能エネルギー利用率向上
- ITサービスを通じた貢献

輝く人々

- キャリア形成支援
- ダイバーシティ推進
(女性活躍、シニア活躍)
- 健康経営推進
- 寄付等の社会貢献活動
- 子育て・介護支援

幸せな成長

- DXソリューション推進
- AX(AI Transformation)推進
- セキュリティ対策ソリューション推進

持続的成長を支える 経営基盤の重点強化テーマ



持続的成長の源泉である
人材への積極投資



多様な人材がいきいきと
活躍できる就労環境



深刻化するサイバー
セキュリティリスクへの
継続的な対策強化

サステナビリティ 経営基盤の重点強化テーマと5つの指標

重点強化テーマ	私たちの主な取組み	経営指標(非財務)	
人材への投資 持続的成長の源泉である人材に積極投資します 	- 自律的なキャリア形成を支援する教育・研修機会の充実 - AIの利活用・教育の機会を提供し、社員の自律的な成長を支援 - 多様なスキル形成を支援する社内異動、ジョブローテーションの活性化	1人当たり 年間教育・研修投資	12万円以上 (売上高比率 0.6%以上水準)
多様性の受容と活躍 多様な人材がいきいきと活躍できる就労環境の整備と企業風土の醸成に取り組めます 	- 心身ともに健康でいきいきと働き続けられる就労環境、制度の整備(健康経営の実践) - 子育て、介護の両立を支援する制度の周知と活用促進(男性育児休暇取得推進など) 「女性活躍推進法」に基づく一般事業主行動計画の策定と推進	従業員アンケート における エンゲージメントスコア 男性育児休暇取得率 管理職に占める女性の割合	年1回以上 従業員アンケートを実施 結果を施策反映 100% 10%以上
セキュリティリスク対応 深刻化するサイバーセキュリティリスクに、有効な対策の強化に継続的に取り組みます 	- ゼロトラストを前提としたセキュリティ対策の高水準での維持、改善と定期的な診断、監査の実施 - インシデント発生時の迅速かつ適切な対応を実現するためのCSIRTの維持、改善 - セキュリティとAI利活用におけるリスクを統合的に管理する体制整備とマネジメントシステムの運用	連結売上高 セキュリティ投資比率	0.5%以上 の水準維持 ※JCIC推奨値



SAKURA KCS
CORPORATION

◆ 免責事項

- 本資料の作成にあたり、当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、作成しております。
- また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。
- 当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズの変化、他社との競争、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。

※本資料に記載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示(TM、®)を付加していません。

※記載されている各社の企業名、製品名、サービス名は各社の商号、商標または登録商標です。